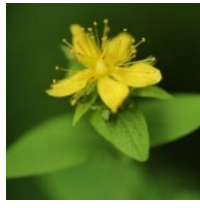
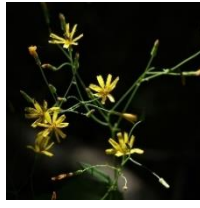




## 旭山では見られなくなった草花リスト

旭山記念公園と旭山都市環境林でかつて継続的に見られていたものの、ここ2、3年ほど見られていない草花を紹介します。これらの花は決して希少種ではなく、むしろ普通種です。(写真は左からリスト掲載順)

- ・ツボスミレ: 花期5～6月。白くて小さい花が咲くスミレ。第2駐車場上の小群落がなくなりました
- ・ニシキゴロモ: 花期5～6月。西側エリア散策路脇に点在していましたがいつの間にか見なくなりました
- ・ツクバネソウ: 花期6月。都市環境林に1か所あった小群落も一昨年姿を消しました
- ・ハナニガナ: 花期。6～7月: 園内広範に見られ森の家のそばにもありましたが、消えてしまいました
- ・オトギリソウ: 花期7～8月。森の家から風の丘の間に転々とありましたがなくなりました
- ・ハナタデ: 花期8～9月。藻岩山登山道入口付近にびっしりと出ていましたが今はありません
- ・ヤマハハコ: 花期9月。林縁数か所に出ていましたが見なくなってもうかれこれ数年が経ちます



これらの花が見られなくなった要因として、笹の進出に負け日差しが遮られたり根が張れなくなった、上層の木の葉が茂ることで日当たりが悪くなった、もしくは常に草刈り作業が入る場所だったことが考えられます。

■ 昨年は見てられなかったものの、今年咲いた花4種類です(右写真左から)

- ・ヤブジラミ: 花期7月(ひつつき)
- ・キツリフネ: 花期8～9月
- ・ミゾソバ: 花期9月(やや湿った場所)
- ・アキノキリンソウ: 花期9月



■ 一方で新たに継続的に見られるようになった花はギンラン(6月)くらいですが、数はごく少ないです。

■ ここ数年減る傾向にある草花としてオオダイコンソウ(6月)、ノブキ(8月)が挙げられます。

■ 逆に増えていると感じるのは、ウツボグサ(6～8月)、ヌスビトハギ(8月)とキンミズヒキ(8～9月)です。

ところで、旭山記念公園では昨年からはヒグマ対策として散策路脇の笹刈りを行っていますが、そのことで条件が良くなり、埋土種子(休眠種子)が発芽し育ってまた見られるようになる花も出てくる可能性があります。

草花も「動いて」いる、環境に合わせて少しずつ変わっているのです。

## レストハウスぽるく通信 2022年10月

### 感謝を込めて「今期営業終了のお知らせ」

一段と寒さが増し、来園される方々の服装も長袖が当たり前になってきました。ほんのひと月かそれくらい前には噴水で遊んだあとの子どもたちの濡れて光った髪やびしょ濡れ姿をよく目にしていたのですが・・・

さて、レストハウス「ぽるく」は来月11月上旬(予定)をもって今期営業を終了します。4月末にオープン、あっという間に来月クローズ。ご来店されたお客様をはじめたくさんの方々とのこれまでのやり取りを思うと感謝がいっぱいです。

思い起こされるのは、山の気まぐれな天気や自然の中にあるが故の出来事。天候により来客数が左右されるため天気予報を随時チェックするものの、気まぐれな山の天気に一喜一憂することもありました。掃いても掃いても店内に積もる樹木の綿毛、スズメバチやアブにヒヤヒヤしたり、クマ情報に敏感になったり・・・自然の中の店舗運営ならではの思い出です。

そして何より、たくさんのお客様との出会い！ 常連のお客様もたくさんでき、とてもありがたい気持ちでいっぱいです。

また来年、雪融けの頃お会いできれば嬉しいです。本当にどうもありがとうございました。

※営業時間: OPEN=10時、CLOSE=日～木曜日17時、金・土曜日・満月の日21時





## 旭山野鳥メモ④シマエナガ

エナガ(亜種シマエナガ) Long Tailed Tit *Aegithalos caudatus japonicus* スズメ目エナガ科

シマエナガの魅力はもはや説明不要か。日本では北海道だけで見られるが世界的には顔に黒い帯がある亜種エナガの方が生息域が狭い。

シマエナガは冬しか見られないという話を時々聞くがそんなことはない。基本渡りはない留鳥。ただし夏は観察頻度が低くなるのは確か。

旭山におけるシマエナガの1年を10月から短くまとめた。

10月: ほぼ毎日見られるようになる。11月: 本格的に群れで行動するようになる。木々の葉が落ち観察・撮影しやすくなる。12月: よく来る場所が決まってくるが年により違う。1月: ベストシーズン。2、3時間に一度同じ場所に来る傾向がある。2月: 群れの結束が緩みペアでの行動が増える。イタヤカエデの樹液を飲みに来る。3月: ペアで行動たまに群れ。巣作り始める。シマエナガには明確な囀り声はないがいつもより長く鳴くことがある。4月: 巣作り続く。一度に見られる数は少ないがこの時期観察頻度が意外と高くなる。巣をカラスなどに壊され作り直すペアもいる。5月: 木々の葉が茂り観察・撮影が難しくなる。雛がかえると餌を運ぶ。同じ親から前年に生まれたまだ繁殖しない個体がヘルパーに加わることもある。6月: 巣立ち。雛10羽前後。エナガ団子。家族で行動。成鳥は子育てでやせ細る。7月: 高標高地に避暑で移動することもある。20年は9月中旬まで約2か月見られなかった。8月: 21年は上旬から週何日か数羽の群れで見られだした。22年も同様。9月: ふっくらとしてくる。幼鳥の顔の黒い帯は少しずつ色が薄まって後退してゆき秋にほぼなくなる。

シマエナガは「ジュル」と声がしたら探せば見つかり、ゆっくり移動する。観察しやすい身近な嬉しい鳥だ。

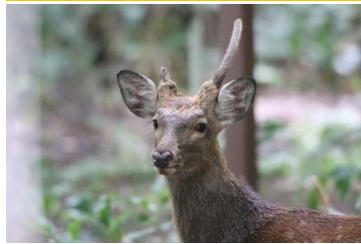


## 2022年10月の野鳥トピックス

- ・カケス(亜種ミヤマカケス): 9/21この秋初認。ほぼ毎日見られています
- ・キクイタダキ: 9/28この秋初認。秋はカラマツにもよく来ます
- ・シメ: 9/7この秋初認。低い位置にはあまり降りて来ません
- ・ビンズイ: 10/3この秋初認。秋は数日間滞在の後南に移動します
- ・モズ: 「キチキチッ」という「モズの高鳴き」が園内で聞かれています
- ・クマゲラ: 秋になり園内でも時々見られるようになってきました
- ・ヤマゲラ: 「ピョップピョップ」と大声で鳴くようになってきました
- ・チゴハヤブサ: 9月最終週まで観察されていました。来年も付近で営巣か
- ・ウグイス(右写真): 10月に入り「デッチッ」という声が園内各所で聞かれるようになってきました



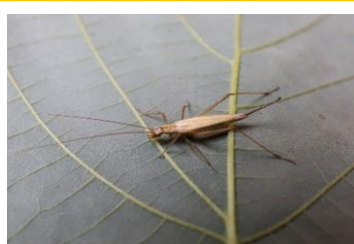
## 旭山ミニ自然図鑑2022年10月 ～赤い実の季節～



○エゾシカ若い雄(角が片方折れている)



○エゾリス、そろそろ耳毛が長くなる



○カンタン 「ピピピピ」と明るく鳴く



○メノコツチハンミョウ 有毒注意



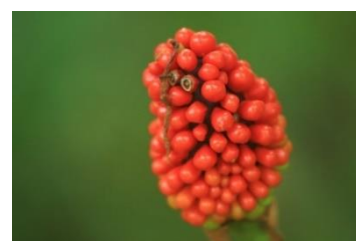
○サラシナショウマ 秋最後に咲く花



⇒赤い実 ○ホオノキ 種子は鞘の中



○ツリバナ 有毒だが鳥が食べる



○マムシグサ(コウライテンナンショウ)



公式サイト

「アカゲラ通信」 第106号 2022(令和4)年10月7日発行

(公財)札幌市公園緑化協会 旭山記念公園管理事務所

<https://www.sapporo-park.or.jp/asahiya/>

〒064-0943 北海道札幌市中央区界川4丁目

電話 011-200-0311 (金・土・日・祝日 10時~16時) FAX 011-200-0351